

1 概況

総合指数は平成17年を100として102.0となり、前年比は0.6%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.9となり、前年比は0.5%下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.4となり、前年比は0.1%の上昇となった。

1-1 近年の総合指数の動き

和歌山市の年平均総合指数は、平成10年の104.5を最高として、その後下落傾向に転じた。

平成12年は、生鮮野菜、電気・ガス代及び工業製品などの値下がりにより、0.5%の下落となった。平成13年は、生鮮食品は値上がりしたが、家具・家事用品や教養娯楽関係の値下がりなどにより0.6%の下落となった。平成14年は、生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより1.5%の下落となり、過去最高の下落幅となった。平成15年は、生鮮食品、被服及び履物などの値下がりにより0.6%の下落となった。平成16年は、家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などの値下がりにより0.2%の下落となった。平成17年は、灯油価格が大幅に値上がりしたが、引き続き家庭用耐久財、教養娯楽用耐久財などが値下がりしたことにより0.5%の下落となった。平成18年は、引き続き灯油価格が大幅に値上がりしたほか、7月のたばこ税引き上げに伴う諸雑費の値上がりなどにより0.3%の上昇となり、平成10年以来、8年ぶりに総合指数が前年比で上昇した。平成19年は、果物の大幅な値上がりに加え、魚介類や調理食品の値上がりにより0.6%の上昇となった。平成20年は、灯油などのエネルギーの価格が大幅に値上がりしたほか、穀類、油脂・調味料、菓子類などの食料の値上がりにより1.7%の上昇となり、総合指数は、3年連続での上昇となった。平成21年は灯油価格が大幅に値下がりしたほか、ガソリン、教養娯楽用耐久財が値下がりしたことにより0.6%の下落となり、平成17年以来、4年ぶりに総合指数が前年比で下落した。

図1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

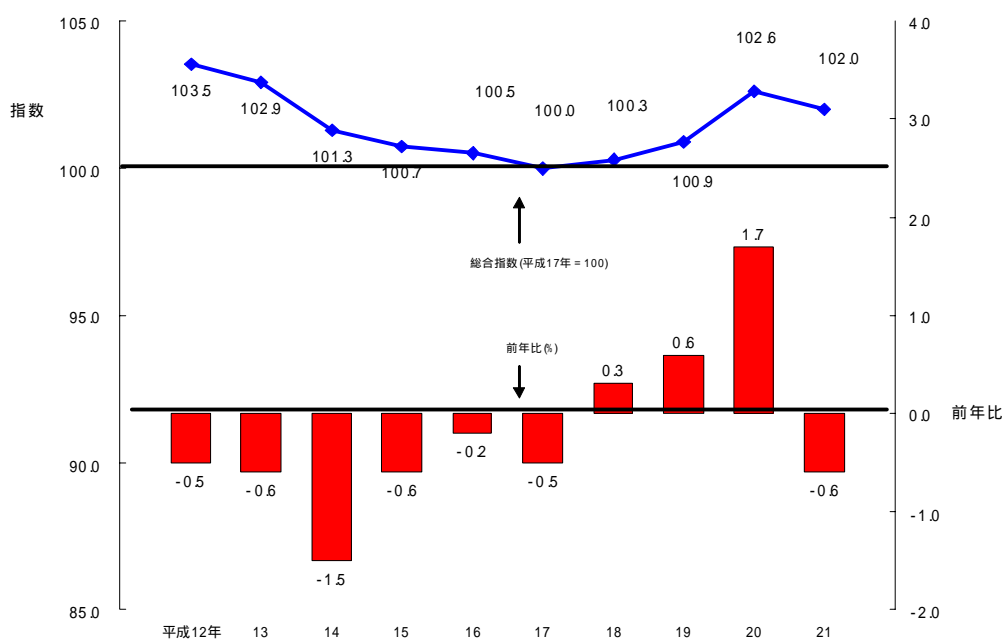


表1 和歌山市消費者物価指数と前年比の推移

年	総合指数 (平成17年 = 100)	前年比 (%)
平成12年平均	103.5	-0.5
13	102.9	-0.6
14	101.3	-1.5
15	100.7	-0.6
16	100.5	-0.2
17	100.0	-0.5
18	100.3	0.3
19	100.9	0.6
20	102.6	1.7
21	102.0	-0.6

表2 平成21年の主な項目の変化率

項目	前年比 (%)
総合	-0.6
生鮮食品を除く総合	-0.5
持家の帰属家賃を除く総合	-1.2
持家の帰属家賃及び生鮮食品を除く総合	-1.1
食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	0.1

註)前年比は各基準年の公表値による。(以下同じ)

図2 総合指数の月別の動き

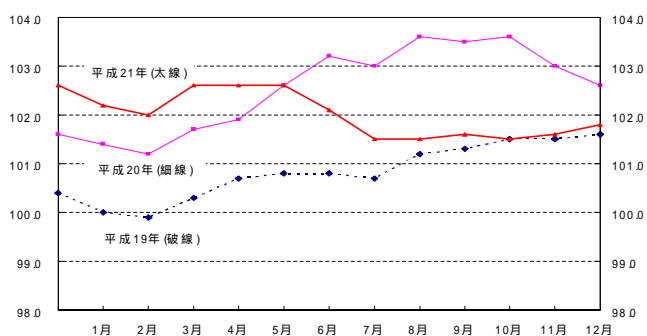


図3 生鮮食品を除く総合指数の月別の動き

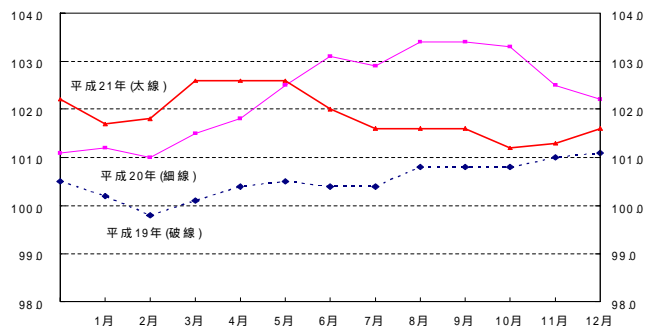
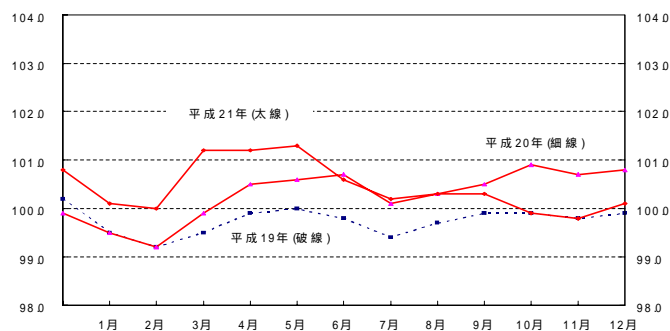


図4 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の月別の動き



1 - 2 10大費目指数の動き

平成21年の10大費目指数の動きを前年比で見ると、上昇したものが3費目、下落したものが7費目であった。

下落幅がもっとも大きかったのは交通・通信で、特にガソリンの値下がりにより4.8%下落した。ついで光熱・水道が2.5%、教養娯楽が2.0%、教育が1.1%、家具・家事用品が1.0%、保健医療が0.8%、諸雑費が0.2%の下落となった。

一方、上昇した費目をみると、住居が1.9%、被服及び履物が0.3%、食料が0.2%の上昇となった。

10大費目の動きを平成21年総合指数の前年比に対する寄与度で見ると、交通・通信が-0.62で総合指数の下落に最も大きく寄与しており、ついで教養娯楽、光熱・水道、保健医療の順となっている。

図5 10大費目の前年比

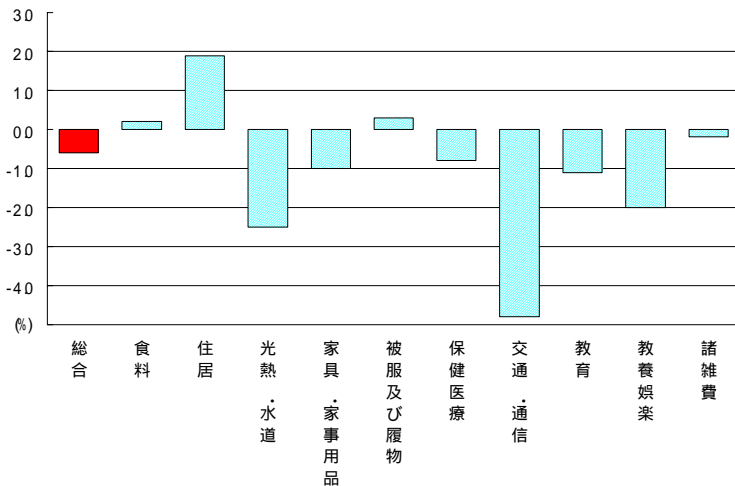


表3 10大費目の前年比及び寄与度

	前年比	寄与度
総合	-0.6	-0.58
食料	0.2	0.05
住居	1.9	0.39
光熱・水道	-2.5	-0.18
家具・家事用品	-1.0	-0.03
被服及び履物	0.3	0.01
保健医療	-0.8	-0.04
交通・通信	-4.8	-0.62
教育	-1.1	-0.03
教養娯楽	-2.0	-0.19
諸雑費	-0.2	-0.01

図6 10大費目の寄与度

